資料２

平成 27 年度 生駒市の子どもの現状と教育の取組

基本方針

本市の学校教育は、人間尊重の精神を培うことを基盤に、心豊かにたくましく生きる力をもった子どもを育成することを目指して推進する。

基本方針のもと、平成 27 年度は「確かな学力の育成」「豊かな人間性の育成」「たくましい心身の育成」「創意と活力に満ちた安全で信頼される園・学校づくり」の４点と、すべての内容に関わる「教職員の研修」を重点目標としている。

「確かな学力の育成」においては、本年度も「伝え合う力の育成」と「わかる授業づくり」に特に力を入れることとした。「伝え合う力の育成」については数年来生駒市が重点的に取り組んでいる。「わかる授業づくり」は、児童生徒が自分の考えを伝え合いながら、自ら学び、自ら考える力を育てる新しい授業の構築を働きかけた。

「豊かな人間性の育成」は、依然としていじめ事件が社会を震撼させる中、生駒市としても肝要な事項として捉え、「規範意識の醸成」を本年度の指導の重点の１つとしている。各学校で子どもたちの社会性や忍耐力を培い、豊かな人間関係を構築する取組を推進した。

「たくましい心身の育成」は、今年度も児童生徒の体力向上を目指して取り組んだ。生駒市では５年前からすべての学校に「体力づくり推進プラン」の策定を求めており、継続的に取り組むことに力を入れている。

「創意と活力に満ちた安全で信頼される園・学校づくり」については、学校経営目標の達成度や教育活動の状況に関する学校評価を行い、その結果を活用して学校改善に十分に生かすことを各学校に指導した。また、学校関係者評価を計画的に行うことにより、地域と共にある学校づくりを推し進めるようにした。

以上を本年度生駒市重点目標と定め、各学校で教育活動に取り組んだ。

１、「確かな学力の育成」について

平成 26 年度全国学力・学習状況調査における生駒市立学校の調査結果を見ると、小中学校ともにほとんどの領域において、奈良県、全国を上回っている。しかし、質問紙調査では自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと回答している児童生徒は多い。また、領域別正答率が高いにもかかわらず、各教科への学習意欲は低い傾向がみられる。そのため、27 年度は興味を持って学習に取り組めるよう、わかる授業づくりの実践に特に力を入れて取り組んだ。

また、現行学習指導要領の実施に合わせ、生駒市では「伝え合う力育成事業」として、読書活動と外国語活動を推進している。平成 25 年１月 15 日に閣議決定された教育再生実行会議では同年５月 28 日に第３次提言を発表し、初等中等教育段階からのグローバル化に対応した教育の充実が示された。国際感覚を身に付け、国際社会で活躍できるグローバルな人材を育成するため、外国語活動の中身を充実させていくことは、今後ますます重要になる。

(1)全国学力・学習状況調査

平成 27 年度、生駒市は、12 小学校６年生 1202 名、８中学校３年生 976 名が参加し、国語Ａ・Ｂ、算数（数学）Ａ・Ｂ、理科及び児童生徒質問紙に回答している。

	小学校（６年生）					中学校（３年生）				
	国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ	理科	国語Ａ	国語Ｂ	数学Ａ	数学Ｂ	理科
生駒市	76.5	72.9	82.3	51.4	66.7	80.2	69.7	71.8	47.6	55.8
奈良県	70.5	64.7	75.5	44.8	60.0	76.2	65.1	65.3	41.7	51.5
全　国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8	75.8	65.6	64.4	41.6	53.0

(%)

学力調査結果を見ると、小中学校ともに、国語、算数・数学、理科のすべての調査について、平均正答率が奈良県・全国を上回っており、これについては、学力テストが始まった平成 19 年から同様の状況が続いている。ただし、小中学校ともに、Ａ問題（主として知識に関する問題）に比べて、Ｂ問題（主として活用に関する問題）の平均正答率が低くなっており、奈良県、全国も同様の傾向が見られる。

小学校の理科では、バランスよくどの領域も全国平均基準値を上回っているが、「観察・実験の技能」「物質」の領域で全国との差が小さくなっていた。これについては奈良県の基準値が全国を下回っていることから見て、奈良県全体として「観察・実験の技能」「物質」の領域に課題があると考えられる。

中学校の理科では、ほぼ全国を基準とした数値に全ての領域が近い結果となっている。国語・算数が大きく上回っていることと比べると、理科の全領域における学力向上が生駒市の課題である。

児童生徒質問紙調査では、理科について「勉強は好き」と回答した児童生徒の割合が、小学生では約 80％、中学生では約 55％で、ともに県や全国と比べると低い数値になっている。

小学生では、「理科室で行う観察や実験の回数」「計画性」、「振り返り」などの項目でも全国を下回る傾向が見られ、中学生では、「授業の内容はよくわかる」「将来役に立つと思う」などの項目で全国を下回る傾向が見られた。理科への興味・関心を高める取組が生駒市の課題である。

全国学力・学習状況調査の結果を、今年度は生駒市内の全小・中学校がそれぞれ学校独自で分析し、その結果をふまえて具体的な取組につなげている。

市教委は昨年度から、調査結果と課題改善のための施策をホームページに公表している。各学校にも結果と課題改善のための取組等を何らかの方法で保護者や地域住民に公表することを求めているが、学校だよりを通じて分析した結果を公表する学校が多く、今後学校独自で分析した結果を保護者や地域住民にどのような形で示していくかが課題である。

(2)奈良県学力・学習状況調査

平成 27 年度、奈良県はすべての小中学校を対象に「奈良県学力・学習状況調査」を実施した。生駒市は、12 小学校４年生 1149 名、８中学校１年生 1023 名が参加し、国語、算数・数学及び児童生徒質問紙に回答している。

小中学校ともに、国語、算数・数学の全ての調査について、平均正答率が奈良県を上回っていた。これは、全国学力・学習状況調査と同じ傾向である。

	小学校（４年生）		中学校（１年生）	
	国　語	算　数	国　語	数　学
生駒市	65.2	77.7	72.0	74.9
奈良県	60.7	72.9	68.1	71.6

(%)

児童生徒質問紙では、「自分によいところがある」と答えた児童生徒が奈良県を上回っており、自尊感情を高めるための改善が見られた。また、「人の役に立つ人間に成りたい」などの規範意識に対する回答にも改善が見られ、本年度の取組を引き続き行っていきたいと考える。

(3)伝え合う力の育成

平成 27 年度の全国学力・学習状況調査によると、生駒市の児童生徒の書く力の正答率は全国・県より上回っているが、正答率としては他の領域よりも大幅に低くなっている。依然、書いたり思いを表現したりすることに課題があると考え、各校に言語活動や伝え合う力の育成に力を入れることを伝えた。

＜「言語活動」「伝え合う力の育成」が研究主題に入っている学校＞

生小	南小	北小	台小	東小	真小	俵小	鹿小	桜小	あ小	壱小	二小	生中	南中	北中	緑中	鹿中	上中	光中	大中
○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○		○	

研究主題に言語活動や伝え合う力の育成を取り上げている学校は上記の通りだが、学校活動全般の中に表現活動や伝え合う活動などを扱っているところは多い。今までも各教科や総合的な学習の時間の中で、自分で課題を見つけ調べたことをまとめて発表したり、他人の考えを受けて自分の考えを発表したりする学習を行っているが、今後は能動的な活動を取り入れた授業や学習法（アクティブラーニング）が重要視されてくると思われる。

全国学力・学習状況調査の質問紙調査の発表・コミュニケーションに関する質問で、当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた割合を見てみると以下のような結果となった。

○友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である

		生駒市	奈良県	全国
H26	小学校	52.2%	49.5%	49.5%
	中学校	44.4%	46.2%	48.6%
H27	小学校	51.7%	51.0%	51.2%
	中学校	48.8%	48.0%	49.6%

○友達と話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞くことができる

		生駒市	奈良県	全国
H26	小学校	91.8%	91.3%	91.7%
	中学校	90.6%	91.1%	92.2%
H27	小学校	92.6%	91.8%	92.9%
	中学校	92.4%	91.7%	93.0%

伝え合う学習に各校とも取り組んではいるが、自分の意見や考えを人前で発表することが得意と考えている児童生徒は、全国と同様に半数程度である。これからは、さらにわかりやすく人に伝える力の育成として、プレゼンテーション力も伸ばしていくことを期待する。

(4)分かる授業づくりの実践

児童生徒にとって、学校が楽しい・授業が楽しいと感じられるかは、学習内容が理解できることとも直結する。授業内容が分からなければその時間は苦痛に感じ、わかると学習に対する関心意欲も向上する。教師は授業のねらいを的確にとらえ、わかりやすく、かつ能動的な授業を構築する必要がある。平成 27 年度の全国学力・学習状況調査によると、授業内容がわかると答えた児童生徒の割合は下記の通りとなった。

国語		生駒市	奈良県	全国
H26	小学校	83.8%	81.4%	80.1%
	中学校	71.6%	69.3%	72.0%
H27	小学校	84.0%	83.0%	82.0%
	中学校	72.6%	72.6%	74.3%

算数・数学		生駒市	奈良県	全国
H26	小学校	79.7%	79.3%	79.6%
	中学校	76.0%	72.5%	71.5%
H27	小学校	82.9%	79.9%	81.0%
	中学校	76.9%	72.7%	71.6%

比較的数値は高めではあるが、中学校国語では 72%前後、中学校数学では 76%となっている。小学校では両教科とも 80%超えているものの、20%近くの児童が授業があまりわからない、あるいはわからないと回答している。更なる授業改善に取り組み、「わかる」と答えられる児童生徒の割合が 90%を超えることを目標としたい。そこで、各学校に「わかる授業づくり」の取組として、公開授業を伴った校内研修の日数を調査した。

○「分かる授業づくり」の取組

＜小学校：授業公開を伴った校内研修日数＞(平成 27 年 12 月末調べ、3 学期の予定も含む)

	生小	南小	北小	台小	東小	真小	俵小	鹿小	桜小	あ小	壱小	二小
H26 年 4 月～12 月末	4	9	2	5	8	2	3	4	3	5	8	9

H27年4月～H28年3月	1	3	3	3	4	1	3	3	7	7	7	6

（単位は日：生駒小は市教振で2本、真弓小は1日で3本の公開授業）

＜中学校：授業公開を伴った校内研修日数＞（平成27年12月末調べ、3学期の予定も含む）

	生中	南中	北中	緑中	鹿中	上中	光中	大中
H26年4月～12月末	3	1	1	5	6	0	7	3
H27年4月～H28年3月	4	1	1	1	6	11	10	3

（日）

今年度はすべての学校で様々な教科、取組で授業研修が行われ、全職員で研修を行う体制をとっているものの、昨年度より授業研修日数が少なくなっている学校が多い。

中学校もすべての学校で授業研修が行われているが、授業研修日数にばらつきがある。中学校は教科担任制ではあるが、教師の発問、授業形態、板書、生徒の授業態度等については、教科の枠を超えて、深められる項目である。今後更に「わかる授業づくり」に向け、研修を行い自己啓発に努めて欲しいと考える。

年々若い教員が生駒市内にも増えてきている。また、全国学力・学習状況調査結果から、言語活動を取り入れた授業に対する認識が依然として教員と児童生徒により大きな差があることも踏まえ、授業構築のあり方について改めて組織的な研修を充実させる必要があると考える。

＜各項目で「当てはまる」あるいは「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合＞

項目	学校	教員の意識	児童生徒の意識
目標（めあて・ねらい）を始めに示してから授業を行っていた	小学校	91.7%	78.0%
	中学校	87.5%	52.6%
学習内容を振り返る活動を授業の最後に行っていた	小学校	66.6%	64.6%
	中学校	87.5%	35.9%
授業で扱うノートは、目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていた	小学校	66.7%	77.4%
	中学校	75.0%	41.9%
「総合的な学習の時間」では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動であった	小学校	58.3%	49.0%
	中学校	87.5%	43.9%

○特別支援教育支援員の活用

わかる授業づくりのためには授業の改善とともに、個別の配慮や支援が必要な児童生徒の学習支援も必要である。通常学級に在籍する自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害等の発達障害を持つ可能性のある児童生徒は約6.5%(H24年12月文科省公表）と言われている。そのような子どもたちには、座席位置を工夫したり、習熟度別の学習を行ったり、コミュニケーションの配慮を行ったりしている。平成28年4月から障害者差別解消法が施行され合理的配慮が教育の中でも求められる中、すべての人が一人一人の多様性を認め合う「共生社会」の実現を目指す「インクルーシブ教育システム」構築のため、今後さらなる特別支援教育の充実が必要である。

生駒市ではそのような子どもたちへのサポートを行うため、特別支援教育支援員の派遣を行っている。

＜小学校の特別支援教育支援員の配置状況＞　　（平成 27 年 12 月末現在）

	生小	南小	北小	台小	東小	真小	俵小	鹿小	桜小	あ小	壱小	二小	合計
配置数	2人	4人	0人	4人	5人	2人	2人	3人	5人	3人	3人	1人	34人
配置日数(週)	5日	9日	0日	8日	12日	5日	5日	4日	10日	6日	7日	1日	72日

＜中学校の特別支援教育支援員の配置状況＞　　（平成 27 年 12 月末現在）

	生中	南中	北中	緑中	鹿中	上中	光中	大中	合計
配置数	2人	0人	0人	1人	1人	0人	1人	2人	7人
配置日数(週)	4日	0日	0日	2日	4日	0日	1日	2日	13日

昨年度は小学校配置数 28 人、週当たりの配置日数は 64 日だったが、本年度は 34 人、72 日になっている。同様に昨年度の中学校は配置人数 8 人、週当たりの配置日数は 18 日だったが、本年度は 7 人、13 日となった。

近年、特別支援教育支援員の配置日数増を要望する学校が増加しており、支援員の人員増が課題であり、来年度に向け、予算化に取り組んでいる。今後は、各学校の特別支援教育支援員と特別支援教育コーディネーター、通級指導教室（ことばの教室）と連携協力しながら、全職員が障害を持つ児童生徒一人一人の障害とその対応について理解し、個別の教育支援計画などを利用して保護者や本人の思いに寄り添い、そのニーズを満たす支援や指導ができるような体制作りをしなければならないと考える。

(5)読書活動の推進

児童生徒の感性を磨き、創造力を育て、感じたことを表現できる力を育成するために、読書活動の推進を継続して行っている。現行学習指導要領においては、思考力・判断力・表現力を育成するために、各教科における言語活動の充実が重視されている。生駒市としてもすべての教科等で言語活動を取り入れ、伝え合う力の育成をめざし取組を行っている。言語活動の充実を図るため、平成 21 年度から学校図書館司書を各学校に配置し、本年度は 3 校に週 3 日、17 校に週 2 日の配置となっている。

平成 27 年度全国学力・学習状況調査に見られる読書に関する質問項目については次のような結果となっている。

読書は好きですか			好き	どちらかと言えば好き	どちらかと言えば嫌い	嫌い
小学校	H26	生駒市	53.4%	21.9%	13.6%	11.1%

		奈良県	47.5%	23.7%	15.8%	12.8%
		全国	48.9%	24.1%	15.9%	11.0%
	H27	生駒市	51.5%	21.5%	14.8%	12.2%
		奈良県	46.4%	22.8%	17.2%	13.5%
		全国	48.9%	23.9%	15.7%	11.5%
中学校	H26	生駒市	40.1%	20.0%	19.4%	20.6%
		奈良県	42.5%	21.6%	18.1%	17.4%
		全国	45.9%	23.5%	16.8%	13.6%
	H27	生駒市	39.2%	21.0%	19.2%	20.3%
		奈良県	40.9%	21.8%	18.2%	18.9%
		全国	44.9%	23.0%	16.8%	15.0%

好き、どちらかと言えば好きと答えた生駒市内の子どもは、小学生 73.0%（全国 72.8%）、中学生 60.2%（全国 67.9%）である。しかしながら、「学校の授業時間以外に普段（月～金）、１日当たりどれくらいの時間読書をしますか」という質問に対し、「全くしない」と答えた子どもは、小学校 19.3%（全国 19.9%）、中学校 44.3%（全国 35.0%）で、読書は好きだが本を読んでない、あるいは読書は好きだが本を読む時間がない、といった現実がある。

朝読書はほとんどの小学校で行われ、今年度は中学校でも３校に増えた。また、司書による読み聞かせや図書紹介を行うことにより、児童生徒の読書に対する興味も徐々に上がってきている。４月から 12 月までに学校図書館司書が行った読み聞かせは、各校平均約 57 回である。特に中学校では、ブックトークや図書紹介、図書館案内、読書手帳の作成、ビブリオバトルなど司書が各種工夫を凝らすことにより、図書の貸出冊数が増えた。さらに、春の子ども読書の日や秋の読書週間に合わせた事業を企画したり、子どもの読書活動を推進する取組を行っている。しかし、全国学力・学習状況調査による図書館（室）の利用は、小中学校とも全国平均よりも依然低い。

○１週間に１回以上学校図書館（室）や地域の図書館に行く回数

		生駒市	奈良県	全国
H26	小学校	15.6%	11.4%	18.7%
	中学校	7.3%	4.3%	8.0%
H27	小学校	14.4%	11.3%	17.6%
	中学校	7.7%	4.7%	8.2%

○平日１日当たり、30 分以上読書をしている割合（教科書、参考書、マンガ、雑誌は除く）

		生駒市	奈良県	全国
H26	小学校	41.2%	36.7%	38.2%
	中学校	24.8%	27.2%	31.4%
H27	小学校	40.7%	36.3%	37.7%
	中学校	25.4%	26.2%	30.6%

全国学力・学習調査の質問紙の結果を見ると、週１回以上図書館等を利用している小学

生は少し減っているが、中学生は微増している。また、平日 30 分以上読書をしている小学生は県・全国より平均よりも多い。中学生は県・全国平均よりも下回っているものの、昨年度よりも増えている。学校での取り組みの成果が出ていると思われる。

図書館の利用率については、朝読書の時間を確保している学校などでは児童生徒が自分の本を持ち込んでいる場合も多く、図書館等の利用率と児童生徒の本の購入冊数の関係も把握する必要もあると思われる。

(6)外国語活動の推進

現行の学習指導要領では外国語活動を５、６年生で実施するが、生駒市ではそれを３年生から行い、外国語活動の充実を図っている。国際感覚を身に付けるためにも言語など外国の文化に触れることは大変重要である。特に小学校では外国語活動の指導力に優れた教職員が少なく、ＡＬＴ（外国語指導助手)やわくわくイングリッシュサポーター（外国語活動を指導する学級担任等を補助する地域人材）が授業の補助をすることで、外国語活動の充実を図っている。

平成 32 年度から全面実施される国の新学習指導要領に基づく新しい英語教育では、５・６年生で教科型の英語を週３時間、３・４年生では週１時間の外国語活動の実施が示されている。市では H28 年度から１・２年生に外国語活動を実施するためにＡＬＴの増員を含め、段階的に体制の整備を進めていく予定である。

＜ＡＬＴとわくわくイングリッシュサポーターの活用予定時数＞　　（平成 27 年度）

	生小	南小	北小	台小	東小	真小	俵小	鹿小	桜小	あ小	壱小	二小	合計
ＡＬＴ(配置日数)	38	37	22	50	40	37	40	39	37	43	51	27	461
Ｅサポーター(配置時数)	66	55	22	99	66	66	66	66	66	77	99	44	792

	生中	南中	北中	緑中	鹿中	上中	光中	大中	合計
ＡＬＴ(配置日数)	43	29	29	40	29	49	46	41	306

２、「豊かな人間性の育成」について

「豊かな人間性の育成と確かな規範意識の醸成」は、いじめや問題行動が依然として存在する市内の状況を踏まえ、本年度の指導の重点の１つとしている。各学校で子どもたちの社会性や忍耐力を培い、豊かな人間関係を構築する取組を期待した。

(1) 豊かな人間性の育成

生駒市においては、小中全ての学校が「児童生徒は熱意を持って勉強している」と感じている。また、小中学校の 95%が「授業中の私語が少なく、落ち着いている」「礼儀正しい」と感じており、授業規律を守る学校としての指導が昨年度同様行き届いている。

「人の気持ちが分かる人間になりたいか？」の質問には「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童生徒が、小学校 95.5%、中学校 94.1%。「人の役に立つ人間にな

りたいと思うか？」は、小学校４年 90.7%、小学校６年 94.9%、中学校１年 94.3%、中学校３年 93.6%であった。この結果から、生駒市が目標としてあげている「豊かな人間性の育成」の成果が見られる。（平成 27 年度全国学力・学習状況調査、奈良県学力・学習状況調査より）。

(2)規範意識の醸成

先の「豊かな人間性の育成」でも述べたように、授業規律を守る学校としての指導の成果が学校側の回答から見られた。一方、児童生徒たちの質問紙回答を見ると、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と感じている児童生徒は小学校４年 95.1%、小学校６年 96.9%、中学校１年 96.1%、中学校３年 92.9%見られ、ほぼ奈良県、全国の数値を上回っており規範意識の向上に向けての成果が昨年度と同様見られた。今後もこのような成果を期待したい。

(3)いじめ対応の充実・推進

＜奈良県いじめに関するアンケート：件数＞　　（平成 27 年６月下旬実施）

	小学校	中学校	全体
1、平成 27 年 4 月からアンケート実施日までにいじめられたことがある者	1167	82	1249
2、１で「ある」とした者で、「今はいじめられていない」と答えた者	790	45	835
3、どのようないじめか			
①ばかにされる、悪口や怖いこと、いやなことを言われる。	661	58	719
②仲間はずれにされる、みんなから無視される。	258	13	271
③軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	269	18	287
④ひどくぶつかられたり、たたかれたり、けられたりする。	234	11	245
⑤お金や持ち物を取られたりする。	50	7	57
⑥お金や持ち物を隠されたり、壊されたり、捨てられたりする。	64	9	73
⑦嫌なことや恥ずかしいこと、危ないことをされたり、させられたりする。	147	7	154
⑧パソコンや携帯電話に悪口やいやなことを書かれたりする。	17	9	26
⑨その他	106	6	112
4、1 のうち、学校として、いじめと確認した件数	18	14	32

毎年６月にいじめアンケートを県下一斉に実施している。生駒市においては、昨年度の調査より、いじめの認知件数は減少している。調査後、認知されたいじめ事案について担任等が児童生徒から聞き取りを行い、指導した。その結果、認知されたすべての事案が一定解決しているが、引続き見守り等の継続した指導を行っている。いじめの問題については、認知の有無だけでなく、十分な実態把握とその後の迅速な対応が重要である。学校独自でのアンケート調査、個別懇談の実施、児童生徒が相談しやすい環境づくりのためのスクールカウンセラーの配置等、いじめの積極的認知に努めるとともに、その対応にあたっては、「いじめられている子どもの立場に立って指導する」「いじめられている子どもを守り通す」という観点を大切にし、迅速かつ組織的に対応を進めていく。生駒市では、当該児童生徒や保護者、教職員に対して医療機関など専門機関と連携して指導助言や援助を受

けられるよう、また、いじめる子どもに対しては毅然とした対応と粘り強い指導が行えるよう、スクールアドバイザーズの活用も推進している。

一方で、いじめ防止のための日常的な取組を充実させなければならない。「いじめを許さない」集団作りのため、教師間の連携を密にして全校体制で取り組むことはもとより、児童生徒一人一人のよさや存在感を認め、自己肯定感や自己有用感を高める取組みを進めている。そして保護者、地域に対しては、人権意識の高揚のための啓発活動をより一層広げるとともに、学校との協力関係を強化している。

今年度の「いじめ防止月間」の取組として、地域ぐるみの児童生徒健全育成事業推進協議会主催の「いじめ問題」に関する講演会の開催、「いじめ防止」啓発のぼりを生駒駅周辺に設置した。また、教育相談カードを配布し、悩み相談窓口を紹介するとともに、「いじめ防止」啓発ポスターと横断幕を小中学校で掲示している。

＜いじめを許さない園・学校づくりのため、特に力を入れて取り組んだ内容＞

		主な内容
幼稚園	高山	日々の生活の中で友達の気持ちに気付かせる指導と、教師の資質向上に努める
	なばた	毎月の「だいすきの日」や誕生会に自分も他人も大切にしようとする取組
	生駒台	家庭との連絡を密に取り「自分も友達も大切にする子」の育成
	南	園児の心を育てる取組と職員間の情報共有の充実
	生駒	毎月の人権を確かめ合う日に年齢に応じた教材、絵本等を使っての取組
	俵口	生命を大切にし、互いに認めあえるなかまづくりを進める
	あすか野	幼児の豊かな心を育てる取組・教師間の問題意識の共有
	桜ヶ丘	遊びの中でコミュニケーション力をつける指導と職員の情報交換
	壱分	月に一度「なかよしの日」「子育てトーク」「にこにこトーク」等を設定
小学校	生駒	校長から講話。気になる児童の情報交換。通信等でいじめ防止の啓発を行う。
	生駒南	「自分たちにできること」・「言葉がけ」・「本当の勇気」・「NHK のココロ部　みんなに合わせる友情」の視聴など、学年別にテーマを設定して、学習する。
	生駒北	担任から「いじめ」に関する学級指導を行う。担任による悩み相談。
	生駒台	気になる児童の情報交換。児童計画委員会による「あいさつ運動」の実施。
	生駒東	校長からの講話。気になる児童の情報交換。「いじめ問題」の授業を実施。 委員会による「ぽかぽか言葉」の掲示および授業
	真弓	校長から講話。気になる児童の情報交換。通信等でいじめ防止の啓発を行う。 「いじめを許さない学級の雰囲気づくりと心の涵養」について、各学年で取り組む。
	俵口	校長から講話。気になる児童の情報交換。「いじめ問題」の授業の実施。児童会を中心に啓発活動を行う。いじめ防止ポスターを作成し、校内に掲示する。「いじめ発見シート」を保護者に配布する。
	鹿ノ台	気になる児童の情報交換。縦割り班によるあいさつ運動
	桜ヶ丘	校長からいじめに関する講話。校長講話を受けての学級指導。気になる児童の情報交換。弁護士による「いじめ防止教室」PTA を通しての保護者への啓発活動
	あすか野	児童会でスローガンを決定し、啓発する。各学級、学年の情報共有を深める。
	壱分	「感情のチャンネルを作ろう」をテーマに、全学年で自分の感情コントロールや感情を言葉で表現する学習に取り組む。

	南第二	ひとりぼっち調査の実施。「いじめ、人権教育」の授業参観・懇談会を実施。人権講演会
中学校	生駒	教育相談（個別懇談）の実施。
	生駒南	教育相談（個別懇談）の実施。
	生駒北	教育相談（個別懇談）の実施。
	緑ヶ丘	教育相談（個別懇談）の実施。
	鹿ノ台	教育相談（個別懇談）の実施。「なかまとともに」を用いた学習
	上	教育相談（個別懇談）の実施。「いじめ、人権」に関する講演会を実施。 生徒会が「いじめをなくそう」を揚げ、発表する。
	光明	教育相談（個別懇談）の実施。講演会。「いのちを守る」憲章の確認。自殺予防・事例研究についての職員研修
	大瀬	教育相談（個別懇談）の実施。生徒会から「いじめゼロ宣言」の発表する。

(4)不登校児童生徒について

＜不登校児童生徒数の変化＞

	小学校	中学校	小学校1000人当たり(市)	小学校1000人当たり(県)	小学校1000人当たり(国)	中学校1000人当たり(市)	中学校1000人当たり(県)	中学校1000人当たり(国)
平成22年度	8	52	1.1	3.6	3.2	17.5	30.8	27.4
平成23年度	24	71	3.4	4.1	3.3	30.0	28.7	26.4
平成24年度	26	88	3.6	4.5	3.1	27.4	28.9	25.6
平成25年度	33	103	4.5	5.0	3.6	32.4	30.8	26.9
平成26年度	26	90	4.1	4.8	3.9	27.9	29.5	27.6

（人）

平成26年度、本市において不登校を理由に年間30日以上欠席した児童生徒数は、小学校26名、中学校90名で、1000人当たりの人数は小学校で4.1人、中学校では27.9人だった。

昨年度に比べ、不登校児童生徒数は減少しているものの、依然、小中とも全国平均より多い状況である。不登校児童生徒には、教員による家庭訪問、スクールカウンセラーによる保護者や児童生徒を対象としたカウンセリングや教育相談を行っている。また、適応指導教室で学習活動に参加している児童生徒もいる。

不登校の未然防止のために、各学校では、一人一人を大切にする仲間づくりや分かる授業・楽しく参加できる授業の創造などに力を入れるとともに、欠席が長期化する以前の早期段階での家庭とスクールカウンセラーや教育相談室と連携したきめ細かな対応を進めるようにしている。

生徒指導を進めるうえにおいて、教育相談活動は不可欠なものとなっている。特に、スクールカウンセラーは専門的立場から、不登校や学校生活への悩みを抱える児童生徒に対するカウンセリングや、教員及び保護者に対する指導・助言・支援など、学校のカウンセリング機能と教育相談体制の充実のために欠かすことのできないものとなっている。

＜スクールカウンセラーへの相談＞

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
相談件数	1394 件	1540 件	1564 件	1857 件	1742 件	1749 件
カウンセラー数	13 人	13 人	19 人	18 人	19 人	19 人

（平成 27 年度は４月から 12 月の９か月間）

本年度から、県下すべての中学校にスクールカウンセラーが配置された。本市では、教育相談活動を充実させるために、独自にスクールカウンセラーを配置している。さらに、スクールソーシャルワーカーも配置し、家庭と学校を繋ぐ役割も果たしている。

不登校やいじめについての相談、発達障害など特別な支援を要する子どもについての相談、家庭環境や家族関係についての相談等、内容は多岐に渡っている。相談希望や相談件数が多数あることから、スクールカウンセラーのニーズが高いことを認識し、今後も円滑に運用できるように努める。また、相談活動以外にも、「予防的教育相談」の視点からコミュニケーション能力の育成やより良い人間関係づくりのための指導の充実にもその役割を広げていく。本年度は、保幼小中の教員を対象とした交流学習会において、スクールカウンセラーの役割とその活用方法について講演会を実施した。

(5)環境教育の推進

生駒市は、平成 26 年３月に「環境モデル都市」に認定されたことを機会として、教育の場での環境学習をより一層充実させるために、総合的な環境教育を進めてきた。その１つとして、今年度も昨年度に続き、市内小中学校の代表による環境教育プロジェクト会議を定期的に実施し、各校の取組を共有するための情報交換等を行っている。

取組としては、昨年度から始めた『エコキッズ-いこま』として環境教育を推進している NPO 団体の出前授業を今年度からは全小学校 12 校を対象に行っている。外部団体や関係機関とも連携した取組を通して、子どもたちに自ら環境に働きかけて環境を守ろうとする姿勢を身に付けさせたい。そして、生駒市の子どもたちが、環境問題をはじめとして社会の様々な課題に目を向け、共に解決していこうとする意欲と実践力をもった ESD 社会の担い手となる人材に育つような環境教育を推進していきたいと考えている。

さらに、各校での環境教育の実施状況をポイントに換算して配当額を決定する『エコボーナス』を、今年度削減額を全額還付するなど、児童生徒や職員の意欲付けを行っている。次に、国際環境教育基金（FEE）が実施する学校での環境学習のためのプログラム『エコスクール』への登録を推進していく。昨年度は小学校２校が登録して取組を進め、生駒南第二小学校が「グリーンフラッグ賞」を、生駒台小学校が「グリーンスプラウト賞」を獲得した。今年度は新たに鹿ノ台中学校が登録した。今後も環境プロジェクト会議で情報交換を行い、他府県の先進校の取組も紹介しながら、登録校数の拡大を図っていきたい。

３、「たくましい心身の育成」について

本市では、県教育委員会の指導の重点である「体力向上」に基づき、「たくましい心身を育てる指導」を推進している。市教委では５年前からすべての学校に「体力づくり推進プラン」を策定し、継続的な取組を進めてきた。以前は全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果は全国に比べ低い状態だったが、昨年度は、体力合計点が全国レベルに達し、本

年度においては、中学校２年生男女で、全国平均を大きく上回る結果となった。

(1)生駒市の子どもたちの体力について～平成 27 年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査より～

小学 5 年生	男子				女子			
種目	H27 年度 全国平均	H27 年度 市平均	全国平均との比較	前年度の市平均との比較。( )は前年値	H27 年度 全国平均	H27 年度 市平均	全国平均との比較	前年度の市平均との比較. ( )は前年値
握力(左右平均)	16.45	16.27		↓(16.72)	16.05	15.89		↓(16.41)
上体起こし	19.58	19.37		↓(19.98)	18.42	18.30		↑(18.27)
長座体前屈	33.05	31.56		↓(33.10)	37.44	36.01		↓(37.21)
反復横跳び	41.60	40.88		↓(42.06)	39.55	37.67		↓(38.31)
20mシャトルラン	51.64	53.48	↑	↓(54.14)	40.69	40.44		↓(40.79)
50m走	9.38	9.28	↑	↓(9.19)	9.62	9.60		↓(9.54)
立ち幅跳び	151.24	155.69	↑	↑(152.51)	144.77	147.24	↑	↑(144.42)
ボール投げ	22.52	22.17		↓(23.87)	13.77	13.77		↓(14.41)

中学 2 年生	男子				女子			
種目	H27 年度 全国平均	H27 年度 市平均	全国平均との比較	前年度の市平均との比較。( )は前年値	H27 年度 全国平均	H27 年度 市平均	全国平均との比較	前年度の市平均との比較. ( )は前年値
握力(左右平均)	28.93	28.87		↑(28.74)	23.68	23.94	↑	↑(23.82)
上体起こし	27.43	28.78	↑	↓(28.82)	23.26	25.15	↑	↑(24.78)
長座体前屈	43.08	44.43	↑	↑(42.52)	45.53	45.62	↑	↓(46.44)
反復横跳び	51.62	56.19	↑	↑(54.38)	46.09	48.94	↑	↓(49.80)
持久走	392.63	397.89		↑(417.48)	290.03	284.83	↑	↑(293.30)
20mシャトルラン	85.56	91.87	↑	↑(86.83)	58.06	62.66	↑	↑(60.64)
50m走	8.01	7.78	↑	↑(7.83)	8.84	8.64	↑	↓(8.60)
立ち幅跳び	194.05	198.06	↑	↑(193.19)	167.28	173.11	↑	↑(170.91)
ボール投げ	20.65	22.73	↑	↑(21.96)	12.83	14.17	↑	↑(14.11)

H27 年度体力合計点		生駒市	奈良県	全国
小学 5 年生	男子	53.85	53.66	53.80
	女子	54.43	54.60	55.18
中学 2 年生	男子	45.59	42.73	41.89

	女子	52.92	48.80	49.08

（体力合計点とは種目別得点表に基づき、各種目の得点を合計したもの）

(2)子どもたちの体力を高める取組～体力向上推進プラン

体育・保健体育の学習指導要領の目標には、「運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする」ことが示されており、児童生徒に運動の特性や魅力に応じて、様々な運動の楽しさを感じさせる体育・保健体育の授業が目指されている。児童生徒の体力向上を推進するためには、運動の楽しさや喜びを実感できるような学校の取組の中で、児童生徒が運動に触れる機会を多くもち、運動やスポーツへの意識を高めていくことが重要である。本年度も各小中学校の体力向上推進プランを生駒市ホームページに掲載した。各学校で、「運動の楽しさや喜びを味わえる」ための授業や行事の改善を図ることがより一層望まれる。

＜体力向上のために本年度特に力を入れて取り組んだ内容＞

		取組内容	回数・日数・対象・人数
小学校	生駒	体ほぐし運動や、投げる力を高める運動	全学年対象　通年
	生駒南	「陸上運動」、「体つくり運動」、「ボール運動」	全学年対象　通年
	生駒北	外遊びの奨励（なかよし遊び・うきうきタイム）	月２回
	生駒台	「外遊び、みんなでチャレンジ！」	全学年対象　通年
	生駒東	朝の会での体幹ストレッチ、運動タイムを年間５回	全学年対象　通年
	真弓	「縦割り外遊び」「外遊びみんなでチャレンジ」	年６回
	俵口	「縦割り外遊び」、長縄大会	週１回
	鹿ノ台	外遊びの奨励　「駆け足・縄跳び月間」	全学年対象　通年
	桜ヶ丘	縦割り外遊び　ストレッチ運動	年間 25 回　体育の授業時
	あすか野	外遊びの奨励（ドッチボール、大縄跳び大会）	毎木曜日の昼休み 40 分間
	壱分	スポーツイベント	各学期１日×３学期
	南第二	スポーツタイム　雲梯や登り棒の奨励	毎木曜昼休み 25 分間
中学校	生駒	補強運動、サーキットトレーニング 部活動の充実	通年　体育授業　部活動時
	生駒南	「奈良県一周縄跳びの旅」ストレッチングの強化	通年　体育授業時
	生駒北	ランニング、補強運動　部活動の充実	通年　体育授業時 部活動時
	緑ヶ丘	部活動の充実、サーキットトレーニング	通年　体育授業時 部活動時
	鹿ノ台	部活動の充実、体育館解放 補強運動 ストレッチ	部活動時　昼休み 授業時
	上	ボール握り、柔軟、ストレッチ運動 部活動の充実	通年　体育授業時 部活動時
	光明	授業時に筋力トレーニング、ストレッチの導入	体育授業時
	大瀬	クロスカントリーコースの設定、体力づくりトレーニング	体育授業時

(3)防災教育の推進

近い将来、発生すると予想されている東南海、南海地震では、奈良県においても大規模な被害が想定されている。そのような中、学校における防災においては、「防災計画」として、

児童生徒の安全確保を第一に考え、予想されるすべての事態に対して、適切な措置ができる体制を確立することが必要である。各学校においては、防災対策マニュアルを作成し、定期的な避難訓練を行いながら、避難経路、保護者への引き渡し方法などの確認を行っている。

本年度は、「生駒市における災害と避難所運営の模擬訓練」をテーマに、市教委主催の教職員対象の夏期研修会を開催した。また、地域や関係機関との連携を強化するために、地域ぐるみの児童生徒健全育成事業推進協議会における各中学校の取組みの一環として、校区内の防災マップ作りが実施された。

一方で「防災教育」は、安全教育の一環として行われており、本年度は、保護者と共に防災について学ぶ授業や生駒市の災害や防災について出前授業が行われた。

今後も、「自助・共助・公助」の視点から、防災対応能力の基礎を培うことに努める必要がある。

(4)食育の推進

本市においては、市民一人ひとりが実際に食育に取り組み実践してもらえるよう、平成 25 年度から「第２期　生駒市食育推進計画」が策定されている。

本年度実施された、奈良県学力・学習状況調査結果によると、本市の小学校４年生、中学校１年生では、朝食はきちんととれているものの、家族と一緒に食べている割合はやや低い傾向が見られる。食事を楽しいと感じる時は、「家族そろって食べるとき」をあげる人が多いというアンケート結果も示されており、できるだけ家族そろって食事をとるという意識をもってもらえるよう、児童生徒だけでなく、保護者に対しても啓発していく。

各学校においては学校給食などを通して、「食の自己管理能力」や「望ましい食習慣」を身につける取組みが進められている。特に、小学校では、食事の準備を手伝う機会を通して、食への関心を高める工夫がなされている。本年度は、市主催で、「父と子仲よクッキング」や「小学生メニューコンテスト」が開催された。

食への関心を高めるとともに、規則正しい生活習慣を身につけさせる指導に努め、自ら生涯にわたっての心身の健康維持・増進に努める姿勢を育成する。

４、「創意と活力に満ちた安全で信頼される園・学校づくり」について

学校経営目標の達成度や教育活動の状況に関する学校評価を行い、その結果を活用して学校改善に十分に生かすことを各学校に指導した。昨年度改訂した学校評価総括表を用い、重点課題には具体的な数値を入れた指標を示し、学校が継続的、組織的、計画的に評価を行い、次年度の課題を検討し、学校関係者に公表するものとした。

(1)学校評価を活用した園・学校改善

学校が、自校の教育活動の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指し、教育の水準の向上を図ることが重要である。また、学校運営の質に対する保護者等の関心が高まる中で、学校が地域や保護者に対し適切に説明責任を果たすとともに、学校の教育活動への理解を図ることにより相互の連携協力の促進が図られることが期待される。学校評価は学校の教育活動を広く周知し、地域と学校をつなぐツールともなり得るものである。学校関係者評価は努力義務とされているものの、地域に開かれた学校運営を行うためには大切なも

のと考える。

＜各学校の学校評価について＞　　（小 12 校・中 8 校）

	生小	南小	北小	台小	東小	真小	俵小	鹿小	桜小	あ小	壱小	二小	生中	南中	北中	緑中	鹿中	上中	光中	大中	
＜教育活動中間調査から：H27/12/24 提出＞																					
学校評価委員会を開催した。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	95%
保護者を含んだ学校関係者評価委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	95%
自己評価の公表	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100%
学校関係者評価の公表	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100%
＜学校評価総括表から：H27/6/30 提出＞																					
「昨年度に残された課題」が「本年度の課題」になっている学校。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	×	○	○	80%
達成度を検証しやすい数値指標を設定している学校	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	×	×	70%

学校関係者評価は全ての学校でホームページでの公開や学校便り等の配布により行いその結果も公表している。学校関係者評価を公表することにより、学校が進もうとしている方向を広く示し、学校教育を進めていく上で何を大切に考え、そのためにどのような学習支援や協力を求めているのかを伝え、地域と共に歩んでいく学校づくりに活用していくことを求める。

(2)地域と共にある学校、園づくり

○地域ぐるみとの連携

生駒市地域ぐるみの児童生徒健全育成推進協議会における、各中学校区の推進委員会で地域と共にある学校づくりを目標に、見守り活動、子育て講演会、クリーン活動、映画会、走ろう会等、児童生徒と保護者や地域の方々が協働できる様々な行事を企画し運営している。その結果、学校、園と地域の距離が近くなると共に信頼関係が深まり、様々な意見を学校運営に反映できるようになっている。今後もあらゆる機会で学校、園・家庭・地域の連携を深め、学校、園の様子を広く伝えていく必要がある。

○学びのサポーターの活用

学びのサポーターは学校行事・各教科・情報教育・クラブや部活動・学力補充・適応指導教室等の指導補助や特別な支援を必要とする児童生徒の介助補助など、各学校の実情やニーズに応じた支援活動を行っている。サポーターは大学生で、児童生徒と年齢も近いため、親しみやすい存在となっている。

この制度は学校教育の充実を図るとともに、大学生のキャリア教育を支援するという側面も担っている。登録できる大学生は、教員を志望する市内在住の大学生及び市内に設置された大学の学生である。

＜小学校での学びのサポーターの活用状況＞　（平成 27 年 11 月末現在）

	生小	南小	北小	台小	東小	真小	俵小	鹿小	桜小	あ小	壱小	二小	合計
活用人数	2	2	4	1	2	1	2	1	2	3	1	3	24
活用時間	105	160	362	19	150	48	190	69	108	239	83	283	1816

＜中学校での学びのサポーターの活用状況＞　（平成 27 年 11 月末現在）

	生中	南中	北中	緑中	鹿中	上中	光中	大中	適指	合計
活用人数	0	11	3	2	3	0	2	1	3	22
活用時間	0	206	54	35	257	0	7.5	67	99	725.5